



三方よし

藤枝市立藤枝中央小学校

「自分にできることは何だろう。」

校長 新村和彦

「あなただったら、注意できますか？①」を読んだ先生から、「コスモスの花」と同じような経験をした子どもの話をしてくれました。



(※「コスモスの花」：主人公の男の子が、さとしくんたち3人組によってコスモスの花が荒らされている場面に遭遇します。「どうしよう。」「ちゅういしたら何か言われないかな？」「となりの組の子だしなあ。」「それに相手は3人だし・・・。」注意しようかどうしようかと、男の子の葛藤を描いている資料です。)

その先生が2年生の担任だった時、道徳の授業で「川にごみを捨てている中学生」の話を取ったそうです。(資料名はわかりません)担任の先生が、川にごみを捨てている人に遭遇したことがあるかと聞くと、資料と同じような経験をしたAくんが手を挙げました。

・Aくん：「中学生が、お菓子のごみを黒石川に捨てていた。注意をしたかったけど、怖くて注意できなかった。」

※Aくんは、ちょうど、生活科で川の生き物の勉強をしていたので、川を汚さないでほしいという気持ちが強くあったようです。

・Bくん：「ぼくも、中学生には、怖くて注意できない。だって、殴られるかもしれないし！」

※AくんやBくんの意見に多くの子どもたちが共感したそうです。それを聞いた担任の先生は、クラスの子どもたちに、「困ったね。どうすればいいのだろう。」と投げかけました。

・Aくん：「今度、そういう場面にあっても、やっぱり注意できない。でも、川の生き物は大切にしたい。注意はできないけど、ごみを捨てることはできる。その時は拾えなかったから、今度の道徳の時に、ごみ拾いに行きたい。」

※このAくんの発表に、みんなが「いいね～」と共感しました。次の道徳の時間には、みんなで黒石川に行きました。川には、いろいろなごみが落ちていて、「自分たちも気をつける。」ということになりました。また、家族とか他のクラスの子どもたちには注意できるという話になり、ごみを捨てないようにという注意喚起のポスター作りに発展していったそうです。

Aくんのように、【川にごみを捨てるのは悪いこと。】→【注意したい気持ちはあるが、怖くて注意できない。】→【では、自分にできることは何だろう？】→【せめて自分だけは、ごみを捨てない。】&【ごみを捨てないように呼びかけることはできる。】というように、『人としてよりよく生きるために、自分にできることは何だろう。』と考えることが、最も大切なことではないのかと思います。



中央小の子どもたちにも、【では、自分にできることは何だろう？】と考えてほしいと思います。私は、子どもたちに、「ごみを捨てる子」になれとは言いません。その代わりに、「ごみを捨てない子」になってほしいと思っています。一人一人が、ごみを捨てなければ、道や川などにごみが落ちていることなんかありませんから。

すべての人が、「まず自分よし」(※「自分だけよし」ではありません。)の行動ができれば、それこそ「三方よし」の世の中になるとと思いませんか。